



夏「休み」

明日からは夏休みであるが、あまり夏「休み」の感じはしないだろう。昔の代ゼミの「僕たち（私たち）の正月は三月だ！」ではないが、「僕たち（私たち）の夏休みは来年だ？」的に努力するしかあるまい。

*

今年の慶応の小論文を見ていたら、なかなかいい問題ばかりである。医学部以外の理系の諸君も、例えば経済学部などは、数学＋英語＋小論文で受験できることから、受験する人がけっこういる。紹介してみよう。

文：國分功一郎『中動態の世界』を読み、

問1 文章を360字以内で要約する。

問2 「自由」について自分の意見を述べる。(400字以内)

法：小松丈晃「リスク社会と信頼」を読み、筆者の意見をまとめた上で(400字程度)それに対する自分の意見を具体例にふれつつ述べる。(全体で1000字以内)

経：亀田達也『モラルの起源』を読み、

問1 課題文で示された「最後通告ゲーム」に関する説明。(300字以内)

問2 市場型社会におけるフェアな分配規範が定着するためには社会の仕組みとして何が必要か、自分の考えを述べる。(300字以内)

看：宮下直『生物多様性のしくみを解く』を読み、

問1 本文の「生態系」について説明する。(200字以内)

問2 「場の多様性も恩恵」を引き出すためには、どのような考え方が必要か説明する。(600字)

といったところである。総合政策学部と環境

情報学部の問題は個性的で、ちょっとここでは紹介しにくいのだが、興味のある人はネットなどで調べてみるとよいだろう。

ちなみに、文の出典の『中動態の世界』は図書室に入れてもらってある。筆者は能動態と受動態の間を中動態と呼び、前記の二元論的な生き方をしている私たちに、新しい意志と責任の在り方を示唆している。

こんな引用をしたのは、そろそろ記述の勉強を…と考えはじめた諸君がいるからだが、余裕があるのなら、自分の受験する大学の過去問を題材にして、記述問に挑戦するとよいだろう。ただし、基本夏休みはそこまでやる必要はない。まずはセンターの過去問をきっちりやって弱点克服を目指すことと、自分の手元にある副教材を徹底的にこなすことだ。副教材に関しては、後期中間考査の範囲まで(つまりその教材全体を)やり終わらせたらどうだろう。後期中間のころは、理社の勉強がしたくてしょうがないはずだから、国数英の副教材には時間がかけられないかも知れない。だから、その時準備しなくても大丈夫なように、今のうちに丁寧に2周くらいやって理解しておくのである。当然のことながら、3年生の副教材には応用的な内容も含まれているから、それをこなすことは汎用的な受験準備(二次対策)にもなる。

勉強の夏とはいっても、あまり手を広げすぎないこと。星陵祭の準備もある。Tの時に●●さんや●●くん、●●くんや●●さんがみんなに伝えたかったことも分け合って、自分なりに精一杯やったら振り返ることのできる「休み」にしよう。目指せ400時間！